

▶先生や仲間と楽しく作品づくり



# 土と炎の芸術 陶芸

## いながわ



中橋 弥里 木下 美由紀

## 特派員報告

季節は芸術の秋。音楽や絵画など、心を豊かにする芸術にも色々ありますが、土という自然の素材から毎日使う器などを自分の手で作ることができる「陶芸」は、年代を問わず楽しめる趣味として人気があります。

今回は、ふるさと館で活動する「陶芸グループ釉」の皆さんと、指導されている陶芸家の部矢満さんに、陶芸の基本工程やその魅力についてお話をうかがいました。

### 陶器と磁器

日本の焼き物の歴史は、約1万2千年前、粘土で形を作って野焼きをした土器に始まりました。その後、縄文土器、弥生土器、土師器(はじき)、須恵器と発展していき、安土桃山時代には、茶の湯の流行により焼き物文化が開花しました。

焼き物には、大きく分けて陶器と磁器があり、土物と呼ばれる陶器は粘土を原料としており、磁器は陶石と呼ばれ

る石の粉に粘土を混ぜたものを原料としています。日本では磁器が作られるようになったのは、江戸時代に入ってからのことです。

### ふるさと館の陶芸業

町内では、早くから豊かな自然の中で陶芸に親しむ人が多く、現在の社会福祉会館に窯が1基設置されていました。昭和58年にふるさと館が開館した際に移設され、現在ふるさと館には灯油を使った窯が2基あります。

## 陶器作りの基本工程

### ①土の準備

産地によって色や風合いの異なるたくさんの種類の中から作品に合った土を選び、形づくりの前によく練って空気を抜いておきます。

▶力を込めて土を練る



### ②成形

ロクロを使った成形と手びねりがあり、手びねりには、粘土をひも状にして巻くように積むひもづくりや、板状にして作るタタラづくりなどの技法があります。土の手触りを味わい、イメージを形にしていきます。

### ③乾燥と素焼き

成形した後、乾燥させてから、ゆっくりと温度を上げて750℃で素焼きします。これは、絵付けや釉薬をかける前に土を堅くするために行う工程です。

### ④装飾(絵付け・釉薬かけ)

釉薬は、うわぐすりとも呼ばれ、長石などの鉱物や灰などを水に溶いたものです。焼き物の表面にかけて焼き上げると薄いガラスコーティングのようになります。釉薬をかけることで、表面はなめらかで汚れにくく丈夫になり、光沢や色彩を与えることができます。

### ⑤焼成(本焼き)

1250℃で7～8時間かけて焼きあげる本焼きの間は、窯の温度の調節などこまめな作業が必要です。完全燃焼させる酸化焼成と酸素を制限して不完全燃焼させる還元焼成という二つの方法があり、釉薬や土に含まれる物質に起こる変化の違いが出て仕上がりが変わります。

### ⑥窯出し

窯の温度が下がるのを待って作品を取り出す窯出しは、炎と熱の力を借りて完成した世界に一つだけの自分の作品に出会う期待と不安の入り混じった緊張の瞬間です。



◀窯出しの様子

## 私達と一緒に作りましょう ～陶芸グループ釉(ゆう)～



◀できあがった作品を手に笑顔がこぼれます

ふるさと館で、毎月2回先生を招いて活動をしている「陶芸グループ釉」は、20年以上も続いているグループです。現在は男性3人、女性11人の合計14人で活動しており、毎年いながわまつりや公民館フェスタなどで作品を展示しています。

粘土の仕入れから焼き上げまで全て自分達で行っており、できあがったものはまさにオリジナルの一品です。

会長の富岡禮義さんは「作ったものを窯の中に入れると、そこからは人の力が及ばない域になります。1250℃の窯の中で、土と炎の融合による神秘的な変化が起こります。窯の扉を開ける瞬間は、何にも代え難いものです」と熱く語られました。

グループ発足当初から教えている部矢先生は「手と目を鍛えて、生きものである土を丁寧に扱い、作りたい気持ちを常に持つことが大切です」と話しておられました。



▲指導されている部矢先生

## 公民館登録の陶芸教室

現在、公民館登録グループでは、3つの陶芸グループが登録されています。興味のある人は、一度体験してみたいかがですか。

### ◎陶芸グループ釉

第1・3木曜日、午前10時～

### ◎創作陶芸玩壺(がんど)

第2・4木曜日、午前10時～

### ◎楽陶夢工房

第2・4火曜日、午前9時～

公民館登録グループについての問い合わせは、中央公民館(☎766-8432)へ。



## 後編 記集



今回取材にうかがった陶芸グループ釉の皆さんは、とても楽しそうでもっともっとたくさんのお話を吸収しようという気持ちであふれ、うらやましく思えました。

家族で使う器や、自分で育

てた山野草を生ける花器を作ったりと、皆さんが目や輝かせて、できあがった作品を手話して話しておられる姿が印象的でした。

普段の生活とは少し離れて、心を集中させてものを作るなんて、素敵な時間ですね。

【いながわ特派員】